

寝屋川教室に通ってみて・・・ ～事例集～

★TMちゃん 3歳児

保健師による発達相談の際にことばの遅れを指摘され当教室に2歳から通われています。

最初はことばもなく教室の環境に慣れるまで時間はかかりました。

「ちょうだい」のことばと身振りから始めて週に2回、1年半通い続けた今ではグループでの療育の際はお友達より先に率先して前に出てきて課題に取り組んだり、ことばもどんどん出てきて（「〇〇がいたい」、「〇〇ちょうだい」など）お話が上手になってきました。

集団での療育の流れも身に付き、生活面での流れもスムーズになってきました。教室でのやりとりでお話の歌やタイコがなると何かが始まるなど見通しを持つことができるようになりました。

通所当初は気持ちの切り替えも難しいときもあり、遊ぶ時間が終わると泣いてしまうときもありましたが回数を重ねていくうちに聞く気持ちや心の成長もあり今では身振りを使わなくても自分の気持ちをことばで表せるようになってきました。

～集団療育での流れ～

- ・リズムで体を動かそう
- ・お返事とあいさつ
- ・年齢や成長に応じた課題
- ・季節ごとの行事等



★SMくん 6歳

通所当初は年少クラスで通われていましたが今年から地域の小学校に入学された。現在放課後等デイサービスの利用で週に2回個別支援で対応しています。年少クラスの時はお友達とのやりとりが多く、今年度からは学習面での支援も始めました。

助詞の使い方や慣用句など難聴があることによっておこりがちなことばの取りこぼしや聞き落とし、発音などを支援しています。また学校での支援についての相談も受けています。（ノートテイクやFM補聴器の取り扱いなど）

★KS くん 1 歳児

生まれてすぐに中等度難聴と診断されて生後半年で保健師より紹介され補聴器の使用や難聴児の子育てやかかわり方について相談に来られました。補聴器からしっかり音を聞くことでことばの成長が見込まれるため装用が始まりました。教室では補聴器の使い方や付け方、また聴力検査ができるお部屋で遊びながら検査の練習もしてもらい病院での検査もスムーズにできるように支援しています。

週に1回は集団での療育、もう1回は個別での支援をしています。

集団ではお友達とのやりとりを大事にしたり本人、保護者も交えて楽しくお話されています。個別支援では集団療育とは違い、個々の目標に沿った課題に楽しみながら取り組んでいます。



～個別支援の内容や流れ～

- ・聴力検査の練習
- ・ことばのやりとり
- ・おもちゃ、カード、具体的なものを使ってことばに触れる
- ・気持ちを出せるような課題の取り組み
(もう1回、おしまい、イヤ!など)

★TT ちゃん 8 歳

ダウン症により聴力的には問題はありませんでしたが障がい特性による筋肉の弱さから息のコントロールが難しく明瞭な発音が出来なかったTくん。

息の出し方や発声の練習、自分の意思を伝えるために使う簡単な身振りや手話も取り入れことばの数を増やしています。かるたや絵日記を書いてことばで伝える楽しさや自分の体験をお話してくれています。